
立てば芍薬、座れば牡丹...歩く姿は暴れ熊!?

角顎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

立てば芍薬、座れば牡丹：歩く姿は暴れ熊！？

【Nコード】

N1129H

【作者名】

角顎

【あらすじ】

中学に入る直前、半陰陽である事が判明した新久間玲は女の子になっってしまう。そんな男として生きてきた玲ちゃんの苦悩と爽快な活躍を描く学園物語。*****尚、この物語の一割は作者の筆力、三割はキャラの暴走：残り六割は変態成分で構成されていますのであしからず○

ぶろろーぐ〜俺が俺である由縁（前書き）

ふむ、本作品立てば芍薬、座れば牡丹：歩く姿は暴れ熊：長いな、最初と最後の一文字でもとって『立て熊』略そうではないか。

ん？私か？なに私の正体は本編で明かされる心配することはないでは読者の皆に作者から一言：最高だぜベイベエ…と言わせられるような作品にしたいようだ

では本編を楽しんでくれ私は玲君で遊ばなくてはならないので忙しいのだ

では去らばだ

ぶろろーぐ〜俺が俺である由縁

この世界には沢山の人が居て、一人一人違う個性を持ち誰一人として同じ人間は存在しない。

そんな世界の中で少し特殊な個性をお持ちの新久間さん家の玲君

はてさて玲君は今日はどんな波乱万丈な1日を過ごすのか？

それは見てのお楽しみ

俺の名は新久間玲、アラクマアキラ ∴ 男だ。

「何を言っている玲君、こんなに可愛い男の子がどこにいるというんだい？」

ええいモノローグにまで入ってくるな翼先輩

「可愛い後輩を正しい道に導くのが先輩たる私の役目なのさ」

正しい道じゃなくて自分好みに仕立ててるだけじゃないですか…

「問題ない、可愛いはジャスティス！…なのだからな」
意味分らないっす

「ふむ、ではそろそろ自己紹介をしようか」

「いやいや誰に？」

「もちろんディスプレイの前の〇者の皆さんにね」

今何か凄い事を言ったような気が…

「細かいことはさておき、私はサイトウツバサ斎藤翼という、ポジションはクールなお姉さんだ」

クールって自分で言うんですか！？

「この私が毎回面白ろおかしく玲君を愛で廻るのがこの〇品の主な概要だ」

何か色々おかしくくないですか！？

「ではそろそろ玲君にも目覚めてもらおうか」

しかも夢お…

「起きろ」っ！？

一言で言うなら最悪の目覚めだった

寝相は悪くない筈なのに何故かベッドから転げ落ちているし、目覚まし時計はうるさいし

「……………」

無言で枕を目覚ましに向けて全力投球する。

目覚ましは本来の停止方ではない方法で強制的に停止もとい破壊された

さらば45代目の時計

「ふわぁああぁ〜…」

盛大な欠伸とともに俺は上着を廻り上げる
化粧台の鏡に写る自分の姿は紛れもなく“女の子”だ

「もう4年経つのか…」

俺は小学六年生の時、両親が足を骨折した俺を運んで行った病院で半陰陽だと知らされた

勿論俺は半陰陽 何よそれ？

といった反応だったが両親は驚愕していたのを覚えている。

その後両親は俺の男性器除去を俺に無断で医者に申請し俺は両親には骨折の治療だよと騙され知らぬ内に男を奪われた。

手術後女になった俺を両親は女子校に入学させ俺を女の子にしようとした。

だがまあ問題なのはその理由だ

俺にはお金持ちの従兄弟がいる。というより家もそれなりに名家だったのだが没落し中流に落ちたのだ

上流の時の味が忘れられぬ両親は外見だけなら良い俺を中身もよくしその従兄弟に嫁がせようと企んだのだ

その従兄弟は男である時から俺が男なのを勿体ないとばかり呟いていたが俺が女になったと知るやいなやいきなり求婚してきやがった。当時俺13従兄弟23、歳の差10歳

ロリコンだったんだよ従兄弟は…
今でもことある毎に求愛され求婚を求められている。

そして中2の時のある日、女の子の演技にストレスが爆発しかけた俺に声をかけてきたチャライ男約三名

「ねえねえ彼女、今暇？俺等と良いことしない？」

「ひひっ、超可愛いねえ〜？」

「お前等ロリコンかよ？ひやはは！」

そんなことを喋りながら三人の内の一人在俺の手を掴んだ
恐らくあれが俺が産まれて始めて堪忍袋の尾が切れるのを聞いた時
だな

気が付けば路地裏に仁王立ちし回りには二桁はいく不良の屍の山（
いやまあ死んではないが）

この時の出来事が原因で俺は通っていた女子校を退学になり普通の
中学に転校した。

それから3ヶ月だけの中学生生活を過ごし俺の義務教育は幕を閉じた。

中学卒業後両親は従兄弟に俺を半ば売り飛ばすように従兄弟に俺の
全ての権利を渡した。

そうして従兄弟は俺の事を煮ても焼いても自由となつたのだが…
あいつはこんなことを言ってきたのだ。

「玲ちゃん、僕は君を僕の愛の力で手に入れたんだ、だから僕は
君が僕を好きになってくれるまで待つよ、取り敢えず玲ちゃんは学
校生活というものをもっとちゃんと送るべきだよ僕が理事長をして
いる高校に来ないかい？」

この時、不覚にも少くしだけ、少しだけだかな！何時もと違い真
面目な顔で俺に語りかけるあいつにときめいてしまったのは俺の人
生最大の汚点だ。

そうして通い始めた高校、セイリョウ 聖陵高校

早くも2ヶ月が立ち今日も俺は自分らしい自分で学校に通う

ぶるるーぐ俺が俺である由縁（後書き）

玲「さて読者の皆様にはまず従兄弟の名前をだな…」

従兄弟「それなら僕から言おうマイハニー」

玲「誰がマイハニーだ」

慎^{サクマジンジ}「僕の名前は佐熊慎^{サクマジンジ}…ハニーとはクマ繋がりだね」

玲「……ボソツ（名字ってなんで変えられないんだろっな…）」

慎「素直じゃないなあハニー…よし早く式を挙げて名字も一緒にしよっじゃないか」

玲「このロリコンが！」

作者「さて痴話喧嘩はさておき、この作品は作者の気まぐれとネタが思いつき次第投稿していきますので気が向いたら感想ならびに評価でもしてやって下さい。ではまた良い月の夜にお会いしましょう」

ぶろろーぐ 聖陵高校 午前 (前書き)

あの何でもないように充実した日々…そんな思い出を妄想と捏造で構成していききたいと思います。

ぶるるーぐ、聖陵高校『午前』

『私立聖陵高校』には大きく分けて三つの人種に分かれている。

『優等生』『不良』『一般人』とまあ、どこの高校でもよくみる構成だ。佐熊の長男である慎二が理事長を勤めるにしては意外なほどに平凡のように見えるがこれまた個性豊かな学生が勢揃い。

かくして聖陵高校とは噂を聞いた程度ではあまり理解できないというのがこの学園を真の意味で知ったものの常識である。

『1限目 国語』

今日は何だかいつもより少し空気が乾いているらしく教科書を朗読すると少し喉が痛い。

国語の担当教師、園田律子ソナタリッコ女史は厳格で美人な事で有名だ。

眼鏡がこれほど似合う人間がいるとは思わなかったと言いたくなるほどのマッチング

眼鏡なくして園田女史とは呼べない程に似合っている程である。

ついでに言つと園田女史は…

「…！そっつ」

ヒュン

「ぐはあっ!?!」

俺の隣で居眠りをしていたクラスメイトの頭部に神速で放たれたチヨークが直撃する。

まあ、なんだ…ダーツ投げの名手なんだよ園田女史

チヨーク投げはその応用つつわけ

「……………(ピクピク)」

何はともあれ、チヨークでこれだけダメージを与えられる園田女史は居眠り学生達にとっては恐怖の象徴なのである。

『二限目 化学』

教卓に漂う怪しい煙に包まれ校閲とした表情で弁をふるっているのは化学の教師『香川早織^{カガワサオリ}』先生だ。

王道でいうところのフェロモンたつぷりの白衣を着た保健室の先生をそのまんま化学の教師にしたという外見に、マッドなサイエンティストな中身と食虫植物みたいなお方である。勿論、性的な意味でだ

「やっぱりいいわぁ たまらないわぁ…」

嬌声じみた声で身悶えするそのお姿は痴女そのもの、

まあ男子諸君には眼福だろうが性的な意味で

化学の授業後大半の男子が前屈みになるのは最早お約束である。

『三限目 芸術』

さて芸術の時間だがこの授業はちよつと特殊だ

普通ならば音楽、美術等で選択科目なのだろうが良くも悪くもこの科目の教師『玉城宗明』^{タマキソウメイ}は“天才”なのだ。

50分という短い時間の間に音楽と美術に分けて授業を実行してみせる。しかも学生の指導が達人の領域に達しているのか生徒も50分で2つの授業をこなせてしまうのだ。

玉城先生に言われた通りに絵を描きながら歌を歌えばどちらも人並み以上に同時にこなせるという異常現象もおきるしかも日常茶飯事に

我が聖陵七不思議の一つとして玉城先生は宇宙人、または未来人なんじゃね？との噂が絶えない。

かくいう俺も玉城先生は宇宙人が何かに違いないと半ば本気で信じている。

まあ要は、そんな事を信じちまう位に異常な先生なんだよあの先生…

『四限目 体育』

正直昼食前の体育は拷問だとしか言いようがねえ…

体育教師の『坂倉鉄生』サカクラテッショウ先生は2m11cmという日本人離れた長身にボディビルダーのような鋼の筋肉をお持ちの、え？どこのK1選手？と言いたくなるようなお方だ

生徒からは鉄生と呼ばれたしまれている。実際、気さくで涙脆くて豪快なところもある漢気あふれる熱血教師だ
ちなみに欠点は…

「おう頑張れよ新久間！」

背中を叩きながら豪快に笑う鉄生

手加減できないんだよなこの先生…

俺は痛む背中を擦りながらマラソンに復帰するのだった。

ぶろろーぐ 聖陵高校『午前』（後書き）

玲「ん？なんだこりゃ？今回は殆んど紹介的な内容じゃねえか」

作者「仕方あるまいそれが我が国の法…じゃない、この作品の方針なのだから」

玲「なに某有名海〇漫画のセリフ使ってやがる」

作者「てな訳でまた次回」

玲「あつ！こらまてえ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1129h/>

立てば芍薬、座れば牡丹...歩く姿は暴れ熊!?

2010年10月11日18時48分発行